

産科・周産母子センターに通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 双胎妊娠における分娩前後での母体体重推移に関する後方視的検討

[研究機関] 北海道大学病院産科・周産母子センター

[研究責任者] 森川 守（産科・周産母子センター 講師・病棟医長）

[研究の目的] 双胎妊娠では妊娠期間中の母体体重増加が大きいほど PIH（妊娠高血圧症候群）の発症頻度が高かった、との報告がある。また、単胎妊娠では妊娠前の母体 BMI 高値は妊娠高血圧腎症のリスクであるが、双胎妊娠では妊娠前の母体 BMI は妊娠高血圧腎症の発症予知に無効であった、との報告がある。しかし、分娩後の母体体重減少に関する論文は見当たらない。産褥期の体重減少率が小さいことは妊娠浮腫の持続を意味する。これは脈管透過性に起因する血管内脱水が一因と考えられている。双胎妊娠において In-out バランス指標として分娩前後の母体体重とヘマトクリット値の変化、妊娠高血圧症候群とアンチトロンビン活性値低下の影響について検討する。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

北海道大学病院産科・周産母子センターにおいて 2008 年 1 月 1 日から 2012 年 12 月 31 日までに分娩した妊婦のうち、帝王切開術で分娩した双胎妊娠妊婦

●利用するカルテ情報

①母体所見：母体産科合併症（妊娠高血圧症候群の有無、常位胎盤早期剥離の有無、胎児発育不全の有無、HELLP 症候群や子癇の有無など）、内科学的合併症（高血圧、糖尿病、甲状腺機能異常など）既往の有無、母体年齢、既往分娩の有無、分娩週数、分娩様式（帝王切開術施行の有無）、母体身長、妊娠前母体体重、分娩前母体体重、分娩時出血量、胎盤重量など

②胎児・新生児所見：胎児機能不全の有無、出生児体重、新生児仮死の有無、新生児奇形、死亡時期

③分娩前後での母体体重、血液検査結果

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院 産科・周産母子センター

担当医師 森川 守

電話 011-706-5678(外来)/5789(病棟)/6932(医局)

FAX 011-706-6932